

E 和束町域の宇治茶生産の景観

石寺・撰原・釜塚・原山・湯船



③ 釜塚の山なり茶園

集落の真後ろに急斜面の巨大な山なり茶園が控える独特の景観を見せます。



概要

和束町域は木津川の支流である和束川を中心に形成された山村です。古代から信楽と奈良を結ぶ重要な交通路として、重要な位置にありました。交通路沿いには中世の石造物も見られ、また南山城を代表する中世山岳寺院である鷲峰山金胎寺を擁するなど、歴史的な遺産も多く目にすることができます。

現在、和束町は京都府内でもっとも茶生産量が多く、京都府を代表する茶生産地となっています。茶生産の歴史は古く、鎌倉時代には鷲峰山山麓で栽培が始まったとされています。その後、江戸時代にも生産は確認されますが、とりわけ栽培面積が大きく拡大したのは19世紀以降です。煎茶輸出などを背景に、南山城地域で茶栽培が拡大するなか、和束町域でも集落裏側の山腹が山なりに開墾されていき、その結果、宇治茶の一大産地へと展開していきました。

原山・釜塚・石寺・撰原の各地区は、山なりに開墾された茶園と集落が織りなす独特の景観が見られ、京都府の文化的景観に選定されています。

また、湯船地区は宇治茶の生産集落を代表する景観が残されています。



④ 湯船の集落景観

湯船地区には、茶工場を有する伝統的民家が群として残されています。

石寺・撰原



① 石寺の山なり茶園



② 撰原の山間の茶園

和東川を挟んで立地する石寺と撰原ですが、茶畑は谷底を通る主要道からは見えません。集落に上がっていくと、とても想像もできないような素晴らしい茶畑景観が広がります。

釜塚では、集落背後の急傾斜の山が頂まで茶畑として開墾された、独特の景観が見られます。

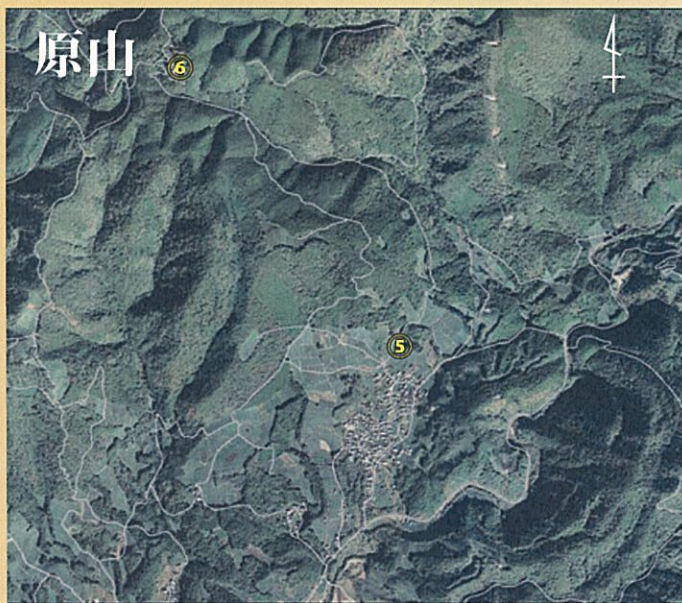
山裾に茶農家等が密集する集落の中には、茶工場も点在しています。



④ 釜塚集落の茶工場



釜塚



原山



⑤ 原山の山なり茶園



⑥ 金胎寺宝篋印塔

原山は、背後に標高682mの鷲峰山が控える集落です。中世山岳寺院を代表する金胎寺が位置し、山頂には正安2年(1300)の銘をもつ宝篋印塔があります。金胎寺の活動のなかで、原山は和東のなかでもっとも早くから茶がもたらされたと考えられています。集落周辺には、見事な山なり開墾の茶畑が広がり、集落内には茶工場も見受けられます。



⑦ 湯船の伝統的民家と茶工場



⑧ 湯船集落と茶園

湯船地区では、林業、稲作、茶業の3つの生業が展開してきました。伝統的民家や茶工場を含む集落景観がよく残されており、宇治茶の生産集落を代表する地区となっています。外での農作業にあわせて雪隠や井戸屋形が屋敷の周囲に配置されているのも特徴です。



湯船

F 南山城村域の宇治茶生産の景観

田山、高尾、童仙房



③ 田山の集団茶園

田山、高尾の茶園は、緩勾配を駆け上がるように茶畝が伸びる「縦畝」の形式に特徴があります。木々の残る山間に茶園が点在する美しい景観が見られます。

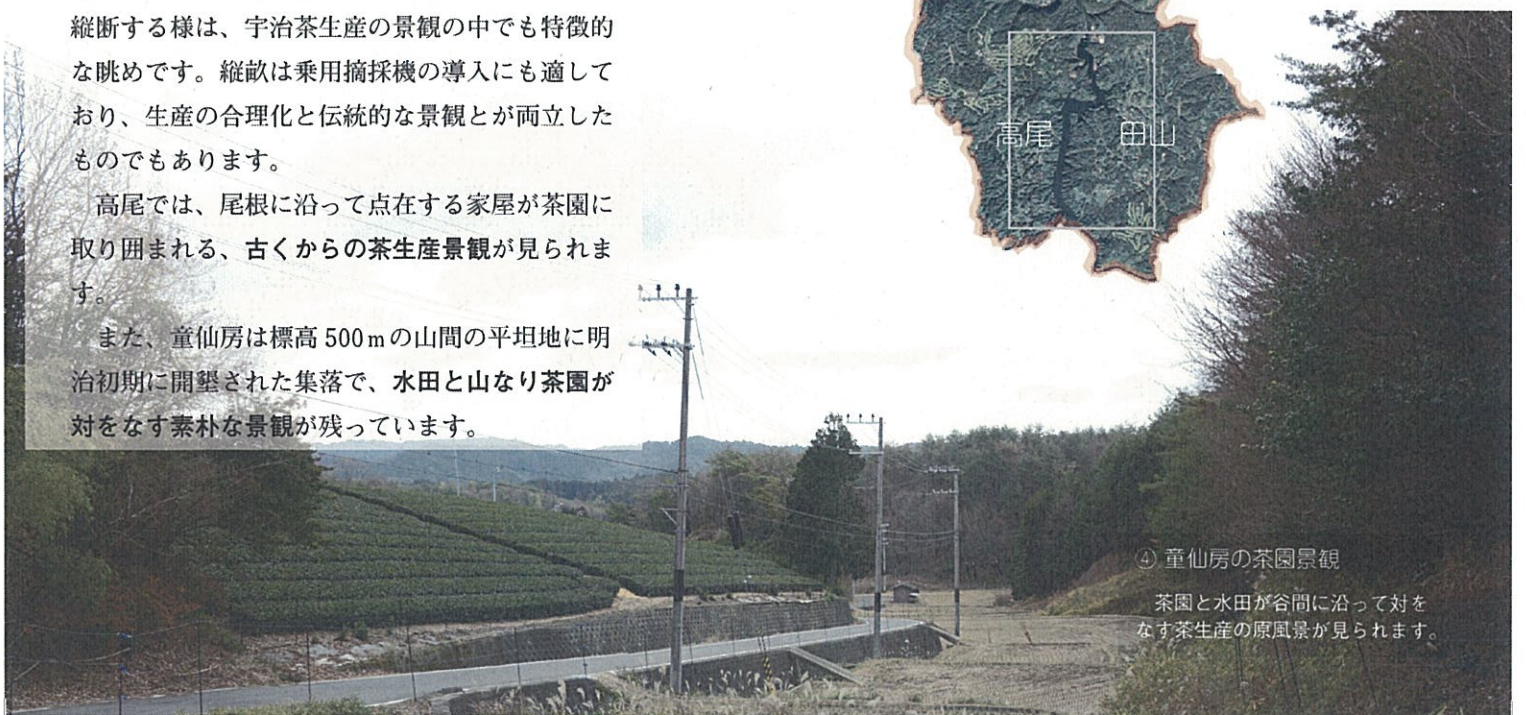
概要

南山城地域は木津川水運を背景に、幕末からの煎茶の輸出を契機として茶園を徐々に拡大してきた生産地です。生産地は田山、高尾、童仙房の3地域に広がっています。

南半に所在する田山、高尾では、縦畝の茶園景観が際立っています。山中に山なりに開墾された緩勾配の茶園が点在し、それらを縫うように畝が縦断する様は、宇治茶生産の景観の中でも特徴的な眺めです。縦畝は乗用摘採機の導入にも適しており、生産の合理化と伝統的な景観とが両立したものでもあります。

高尾では、尾根に沿って点在する家屋が茶園に取り囲まれる、古くからの茶生産景観が見られます。

また、童仙房は標高 500 m の山間の平坦地に明治初期に開墾された集落で、水田と山なり茶園が対をなす素朴な景観が残っています。



④ 童仙房の茶園景観

茶園と水田が谷間に沿って対をなす茶生産の原風景が見られます。

童仙房

南山城村の北端に位置する、京都府南部で最も標高の高い地区で、明治期に新しく開拓された村です。戦後にも大きく開拓され、独特の茶園経営がなされてきました。



① 童仙房の集団茶園

南山城村の中でも童仙房では縦畝ではなく横畝が優勢で、村内の茶生産の景観の多様性がうかがえます。



② 茶畑と水田

斜面の茶畑と平地の水田が対になる茶生産の原風景が見られます。



③ 童仙房の町並み

山中に突如現れる町並みは開拓村としての童仙房の歴史を物語ります。



⑤ 高尾の集団茶園

縦畝が斜面を走り、丘を越えていく南山城特有の茶園の景観です。

高尾

名張川の西側に位置する、標高の高い丘陵上に開かれた茶生産集落です。急勾配の斜面に、南山城特有の縦畝茶園が広がります。岩が多い地質の影響から、所々に茶園から岩が露出する光景も見られます。



⑧ 田山の縦畝茶園

高尾と同じく縦畝が多くみられる田山の茶園景観。縦畝の茶園が斜面いっぱいに広がる独特の美しい景観です。



⑥ 高尾の茶園と家屋

急勾配の斜面に、茶園が家屋を取り巻くように開かれています。平地の少ない高尾における伝統的な家屋と茶園の関係がよくうかがえます。



⑨ 田山の集団茶園

畝の向きが複雑に変化し、斜面を織りなしていく独特の風景が一望できます。



⑦ 岩山の茶園

比較的勾配が急な茶園が多く見られる高尾の茶園の中でも異彩を放つ急斜面の山なり茶園。巨岩が露出する山を覆うように作られたこの茶園からは象徴性が感じられます。



⑩ 田山の集落と茶園

斜面の茶園と平地の水田の間に家屋が立ち並ぶ、昔ながらの茶農家の生活景が良く残っています。

田山

名張川の東側に位置し、緩やかな丘陵に多くの谷筋が入る地形に茶生産景観が広がります。集落、水田と茶園がまとまりをなす伝統的茶園景観に加え、集落から離れた山間に大規模な縦畝の茶園が広がる集団茶園も見られます。

G 木津川市域の宇治茶生産の景観

山城町上狛



① 大正期建築の茶問屋

大正期には茶の販路が国内向けとなり、質の高い茶を安定して販売することで、茶問屋が隆盛を極めました。広い間口に長屋門を構え、中庭に面して茶工場と主屋を並べる屋敷構えが特徴です。

概要

上狛には、木津川水運を利用した交通の結節点である地の利を活かした茶問屋街が形成されています。

綿業を商っていた家々が、幕末からの煎茶の輸出拡大にともない、順次茶問屋へと転換し発展したもので、奈良街道に沿って広い間口を有する茶問屋が立ち並ぶ通り景観を見せます。

現存する茶問屋の建物は、幕末建設のものから、販路が国内向けとなった大正、昭和初期に建設されたものまで多様に残っており、広い間口を活かして長屋門を構え、中央の庭を茶工場と主屋が囲む、明治以降に発展した茶問屋らしい合理的な配置をみせます。



木津川市



② 焼杉板で囲まれる路地空間

茶業の隆盛に伴い、街道沿いから裏手へと茶問屋街が広がりました。路地では焼杉の腰板を張った茶工場や土蔵に囲まれる独特の景観が見られます。



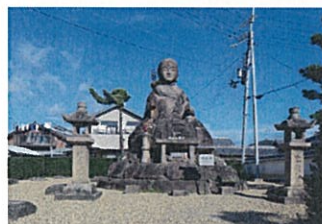
③ 近代化された茶工場

茶工場は戦後、鉄筋コンクリート造の近代化されたものになっていますが、大正期以来の上狛の茶問屋独特の建物配置は継承されています。



④ 江戸時代後期建築の茶問屋

茶の輸出が始まった江戸時代後期に建設された茶問屋です。上狛が綿業の集落から茶問屋街へと転換していく初期のもので、街道に面して間口一杯に茶工場を配する古い配置形式を残しています。



⑤ 泉橋寺地蔵菩薩

奈良街道が木津川を渡る箇所にかつて架けられていた泉橋の橋詰めに立つ、鎌倉時代造立の大きな地蔵です。河川と街道が交差する上狛の地理的特性のランドマークとなっています。

宇治茶歴史街道

山城地域は、お茶に関わる歴史的な史跡や行事・習慣が多く、お茶の文化が日常的に息づいている地域です。

この特性を活かし、茶園、施設、歴史、文化、人など、宇治茶に関係する自然や取り組みなどを紹介する「宇治茶歴史街道」を設定しました。

宇治茶の歴史と文化の道

「宇治茶の歴史と文化の道」は、宇治茶が山城に伝播発展した800年の歴史をたどる道です。

その起点、黄檗山萬福寺の総門前には、京都府尾「高山寺」の明恵上人が鎌倉時代に茶の栽培をこの地に伝えたことを記念する「駒蹄影園碑」が、また、宇治田原町には日本の煎茶の製法「青製煎茶製法」を考案し、煎茶の普及に大きく貢献した人物、永谷宗円ゆかりの施設があります。

この他にも、「宇治七茗園」の一つ「奥の山茶園」や、「玉露製茶発祥之碑」、「興聖寺 茶笏塚」など、山城地域には、たくさんのお茶の史跡や茶園、茶店が点在しています。

宇治茶の歴史に触れながら、おいしいお茶とお菓子を味わえる、「宇治茶の歴史と文化の道」。まずは、おすすめウォーキングコースで宇治茶の魅力を感じてみませんか。



奈良街道とお茶の道

「奈良街道とお茶の道」は、街道、木津川、鉄道でお茶を運んだ道です。

木津川市山城町は、古くからのお茶の集散地です。まわりの地から集められたお茶を精製加工して、上狛浜から木津川・淀川の水運によって神戸へ、そしてアメリカやイギリスに輸出したことから、かつては「東神戸」と言われました。

明治、大正、昭和と続いてきたにぎわいが「茶問屋ストリート」として当時のおもかげをしのばせています。

木津川の流に調和する「流れ橋」、木津川沿いに広がる茶畑風景。あなたも、奈良街道や木津川で、お茶を運んだ人々に思いをはせながら、美味しいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



玉露・てん茶の産地の道

「玉露・てん茶の産地の道」は、覆下で作る玉露やてん茶の産地と茶人ゆかりの社寺をめぐり、玉露の手もみ体験やおいしい宇治茶を味わう道です。

木津川の流に調和する流れ橋のたもとには、てん茶畑が広がり、古き時代の趣きがあります。京田辺市には、高級な手摘み玉露の茶畑が見られます。

石清水八幡宮の社僧であった松花堂昭乗は、茶人としても有名で、ゆかりの松花堂庭園では、茶会も行われます。また、とんちで有名な一休禅師が晩年を過ごした酬恩庵(一休寺)では、秋には燃えるような紅葉を楽しむことができます。普賢寺ふれあいの駅では、地元の農産物を購入することができ、玉露の手もみ体験もできます。

あなたも、茶人ゆかりの社寺をめぐりながら、おいしいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



文化的景観の茶畑の道

「文化的景観の茶畑の道」は、京都府選定文化的景観に選定された「和束町の宇治茶の茶畑景観」を巡り、紺碧の空と茶樹が織りなすコントラストの美しさを楽しむ道です。

「恭仁宮跡」「海住山寺」「安積親王陵墓」など、街道付近には、歴史と文化がたどられます。和束町のお茶の始まり、それは、鎌倉時代までさかのぼります。海住山寺の高僧慈心上人が、茶業興隆の祖とされる梅尾の明恵上人より、茶の種子の分与を受け、鷲峰山山麓に栽培したのが始まりと言われていいます。江戸時代には皇室領となり、京都御所にも納められていました。

「石寺の茶畑」「原山の茶畑」「恭仁宮跡」「海住山寺」「安積親王陵墓」…「文化的景観の茶畑の道」は、先人が苦勞して作りあげてきた日本の農村風景そのものです。あなたも、美しい茶畑景観を愛でながら、美味しいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



緑の茶園ときらめく水面の癒しの道

「緑の茶園ときらめく水面の癒しの道」は、山並みに広がる茶園や高山ダム、月ヶ瀬湖、木津川沿を散策し、南山城村の宇治茶を楽しみ、笠置の温泉で心と体を癒す道です。

高山ダムの春は、水面がきらめき、桜が咲きほこるところから始まります。そして、5月、ウォーキングコース沿いには、目にもまばゆい新芽が芽吹く茶畑が広がります。

木津川沿いを散策すると後醍醐天皇を慕う姫が祀られている恋志谷神社。地元の人から「恋志谷さん」と慕われ、縁結びに御利益があるとされています。

支流の布目川下流には一枚岩からなる河床に陥穴が散在する壮観な風景を楽しみながら、笠置の温泉へと至ります。

「緑の茶園ときらめく水面の癒しの道」は、どこまでも続く茶園と湖や川の水面を楽しみ、そして南北朝時代の歴史に触れる道です。

あなたも、茶園や水面の美しさに癒されながら、おいしいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



宇治茶歴史街道に関するお問い合わせ先

宇治茶の郷づくり協議会／事務局：(公社) 京都府茶業会議所内
宇治市宇治折居 25-2 電話 0774-23-7713

京都府・市町村連絡先

- 宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課
電話 0774-22-3141 (代)
- 城陽市市民経済環境部農政課
電話 0774-52-1111 (代)
- 京田辺市経済環境部農政課
電話 0774-63-1122 (代)

- 宇治田原町産業振興課
電話 0774-88-2250 (代)
- 和束町農村振興課
電話 0774-78-3001 (代)
- 南山城村産業生活課
電話 0743-93-0105 (代)

- 木津川市建設部農政課
電話 0774-72-0501 (代)

編集：京都工芸繊維大学・清水研究室 京都府立大学・上杉研究室

発行：京都府農林水産部農政課 電話 075-451-8111 (代) メール nosei@pref.kyoto.lg.jp